

## 実践報告

留学準備における日本事情教育の重要性を  
検討するための基礎調査足立 恭則<sup>A</sup>Basic Research for Considering the Importance of Reviewing  
Knowledge about Japan in a Study Abroad Preparation  
ProgramTakanori ADACHI<sup>A</sup>

**Abstract:** Japanese university students studying abroad are frequently asked questions about their home country, but a survey conducted on a group of semester study abroad returnees<sup>1)</sup> suggests that they may not be adequately prepared to answer these questions. Because university students who fail to answer basic questions about their own country would be put in an embarrassing situation and their contribution to disseminating information about Japan to people abroad would be diminished, the author argues that a study abroad preparation program should include a review of their knowledge about Japan. To develop such a program, information about (1) the kinds of questions that are asked and (2) the frequency with which they are asked are needed. To collect these data, a questionnaire was distributed to university students who had finished a semester of ESL program in an English-speaking country. The result indicated that everyday topics such as food and culture were much more frequently asked about than topics in social issues. The analysis of each question also revealed that the questions can be grouped into a 4 X 3 matrix based on the types of questions (e.g., ones that ask for factual information versus ones that ask for opinions) and the necessity to answer them adequately (e.g., embarrassing versus not so embarrassing, if not answered properly). Based on these findings, the importance of carefully selecting the topics and types of questions for the content of the preparation program is discussed.

**Keywords:** learning about Japan, introducing Japan, study abroad preparation

キーワード：日本事情、日本紹介、留学準備

## 1 はじめに

グローバル化が進む中で、自国のことを海外の人たちに説明する機会が増えている。その一方で、留学から帰国した学生からは、他国の留学生に比べ日本の学生は自国についてしっかり説明ができていないとの声もよく聞かれる。「東京の人口はどのくらいですか」、「日本の健康保険制度はどうなっていますか」など、大人であれば答えられることが期待される質問にも十分に対応できていないケースも少なくないようだ。

「グローバル人材」に必要な素養は数多あるが、英語が使える、異文化適応力がある、海外の事情に詳しい

などに加えて、自国の情報をしっかり持ち、それを正確に発信できる力も不可欠である。とりわけ、留学を控えた学生には自国に関する情報を正確に発信できる力をつけてから送り出すことが肝要である。本稿では、こうした力を身につけるには、体系的な教育が必要であるとの認識に立ち、そのための基礎調査を行う。調査の第一段階として、日本人学生が留学先で受ける日本に関する質問の内容と質問を受ける頻度を明らかにし、その上で、そのような質問に答えるために必要な準備教育の内容について考察する。

## 2 日本紹介のこれまでの試み

## 2.1. 各分野における日本紹介

A: 東洋英和女学院大学国際社会学部

日本文化や日本人の特徴を説明することは、古くは新渡戸稲造の『武士道』<sup>2)</sup>やルース・ベネディクトの『菊と刀』<sup>3)</sup>のような学術的著作において行われていたが、80年代後半のバブル経済期以降は日本人論ブームに乗って多くの一般書籍も出版され、より広く行われるようになった。その背景の一つには、企業等において海外との取引や社員の海外赴任などが増え、日本や日本のビジネス慣行に関する説明を求められることが多くなったという事情がある。この時代以降、『日本～その姿と心～』<sup>4)</sup>や『日本タテヨコ』<sup>5)</sup>などの日英対訳の日本紹介本が出版され始め、その後現在に至るまで相当数の「英語で語る」日本紹介本が出版されている。

一方、訪日外国人観光客に対しては日本各地の情報やそこで目にする物事に関する情報を伝達する「通訳案内士」というものがあり、民間レベルでの情報発信も行われている。通訳案内士になるためには国が実施する国家試験「通訳案内士試験」に合格する必要がある、年間約2千名前後が合格している<sup>6)</sup>。

日本語教育においては、昭和37年に当時の文部省が国公私立大学に対して外国人留学生向けの科目として日本事情に関するものの設置を通達し<sup>7)</sup>、以来、バブル経済期以降の外国人留学生増加を経て、現在では日本語科目と並行して広く開設されている。

さらに、英語教育においては、現在、教材内容に日本理解や日本紹介を取り入れる取組が始まっている。現行の学習指導要領では、小学校から高等学校の外国語(英語)教育において、適宜、日本の文化や社会に関する内容を扱うことが求められている。たとえば、高等学校学習指導要領では、授業で扱う内容に関する配慮事項として「その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし(p92、下線は筆者)」<sup>8)</sup>と定めている。また、文部科学省が進める「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」<sup>9)</sup>では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、日本文化の発信および日本人のアイデンティティ強化のための教育を推進し、英語による日本文化の発信、国際交流・ボランティア活動等の取組強化や日本の歴史・伝統文化および国語に関する教育の強化を目指している。

## 2.2 留学準備教育における日本紹介の扱い

このように、古くは学者を中心に行われていた日本研究や日本紹介は、現在では一般企業、観光業、日本語教育、英語教育など多くの領域で積極的に扱われるようになり、日本文化や日本社会に関する情報の発信がますます重要視されるようになってきている。

ひるがえって、留学準備教育の分野を見渡すと、自国の文化や社会について学ぶことを留学準備の重要な要素として捉え、そのための教育プログラムを整える動きは活発とは言えない。

一般に留学準備教育には、現地での生活に備えるための準備(健康・安全管理)や語学力、異文化理解力をつけるための教育、留学先の国事情など、留学先での生活・学業に必要な広範囲のものが含まれるが<sup>10)</sup>、実際の準備教育の現場で何をどの程度取り上げるかは、教育機関・指導者によってまちまちである。Woody Thebodo & Marx<sup>11)</sup>は留学準備教育で扱うべき学術的なトピックとして、(1)文化の概念、(2)異文化適応、(3)個人・文化的アイデンティティ、(4)留学先国・地域に関する事柄、の4つを挙げているが、そこには自国の文化や社会について再確認する、あるいは学び直すという要素は含まれていない。自国に関する知識は留学までに受けた学校教育や実生活の中で身につけている(はずの)ものとして捉えられていることが窺われる。実際、留学準備教育を扱う論文の多くは語学準備や留学先での異文化適応への準備(たとえば、高濱・田中<sup>12,13)</sup>など)に関するものであり、日本に関する学習を前面に出すものは見当たらない。

それでは、すでに身につけているはずの自国に関する知識をあえて、留学準備教育で扱う意義はあるのだろうか。これに答えるには、まず、留学をした日本の学生に自国に関する知識が欠けているのかを検証する必要がある。

足立<sup>14)</sup>は半年間の語学留学を終えて帰国した大学生を対象に留学成果に関する意識調査を行い、留学中日本に関する質問を受けた頻度に加えて、「日本に関する知識が足りないと思ったか」、「日本に関して学ぶ必要性を留学前より感じるか」等について尋ねた。その結果、まず、質問を受けた頻度として、約14%の学生が「ほぼ毎日」、32%が「週4・5回」、52%が「週1・2回」と答え、半年の留学期間全体ではかなりの頻度で日本に関する質問を受けているであろうことがわか

った。続いて「日本に関する知識が足りないと思ったか」に対して、47%の学生が「かなり足りない」と感じ、「多少足りない」と合わせて94%の学生が日本に関する自身の知識不足を実感していたことがわかった。さらに、「日本について学ぶ必要性を感じるか」については、77%の学生が留学前より「ずっと強く感じる」と回答。このことから、留学が日本に関する知識不足を認識させ、学習の必要性を痛感させるのに大きな効果を発揮していることがわかった。

このことは同時に留学準備の段階で日本に関する知識をつけるための学習が必要であることを示している。個々の学生により程度の差はあろうが、すでに身につけているはずの日本に関する知識は、実は身につけていないことが少なくなく、日本の教育機関としては、この事実は看過できない問題である。そうした観点から、日本に関する知識を身につけるための学習を留学準備教育の一環として行うことには意義があるといえる。

では、留学準備教育ではどのような内容を扱えば良いのだろうか。それを決めるためには、留学した学生が実際に留学先でどのような質問を受けているのかを探らなければならない。留学中の学生が、どのような質問を、どの程度の頻度で受けているのか、より具体的な情報を得るための調査が必要である。

### 3 研究方法

本稿では、こうした情報を収集するため、約半年間の海外留学をした大学生に対し質問紙調査を実施し、「教育」、「食」、「社会問題」などのカテゴリーごとに、受けた質問の頻度をまとめ分析した。さらに、それぞれのカテゴリーにおいて、具体的にどのような質問が多かったかを知るために、留学中に学生が提出した「マンスリーレポート」を分析し、実際に尋ねられた質問の内容を分析した。

#### 3.1 調査手法と内容

まず、どのような質問をどの程度の頻度で受けるのかを調べるため、質問紙を作成した(付録)。調査対象者は特定の話題に対してどの程度の頻度で質問を受けたかを4件法(「よく聞かれた」「ときどき聞かれた」「あまり聞かれなかった」「まったく聞かれなかった」)により回答した。質問紙は設問の順番を入れ替え、2

バージョン用意し、設問の順番による影響を軽減した。

質問項目(話題)は一般書籍である『英語で日本紹介ハンドブック』<sup>15)</sup>で取り上げられているものを中心に選定し、それをもとに数種類の日本紹介書籍(『バイリンガル日本事典』<sup>16)</sup>、『日本-その姿と心-』<sup>17)</sup>、『日本タテヨコ』<sup>18)</sup>、『英語で紹介する日本事典』<sup>19)</sup>、『英語で話す「日本」Q&A』<sup>20)</sup>を参照しながら、追加・削除その他の微調整を行った。その結果、以下の3カテゴリー、33項目が選定された。

「暮らし」

家族、住居、教育、食、家計、社会保障、仕事、結婚、宗教、女性、健康、社会問題

「文化」

日本語、伝統芸能・芸術、大衆芸能・芸術、スポーツ、年中行事・儀式、風物、国民性

「国土・国家」

国土、人口、気候、災害、政治、天皇、国防、国際関係、シンボル、歴史、経済・産業、交通、環境問題、観光

さらに、それぞれの項目について、具体例をいくつか示し回答の際の指針とした。例えば、「教育」については、「教育(例:学校教育制度、進学率、英語教育、塾・予備校、学校生活など)」のように示した。具体例を示すことにより、各項目の内容を限定してしまうことも危惧されるが、項目名のみを与えられ、その項目の質問を受けた頻度を答えるのは難しいことが予想されたため、この方法を取ることとした。それぞれの項目の具体例は上記各書籍から頻出するものを選定した。

こうして得た各項目の質問頻度に加え、各項目で具体的にどのような質問を受けているのかを調べるために、学生が留学中に派遣元大学に提出した「マンスリーレポート」も分析した。このレポートには「今月起こった異文化ハプニング」や「今月の成長体験」といった項目に加え、「今月、日本について聞かれたこと」という質問項目があり、留学中の学生はその月に受けた日本に関する質問を記述し、それらに対してきちんと対応できたかどうかを振り返ることになっている。今回の調査では、その項目を分析対象とした。

##### 3.1.1 調査対象者

質問紙調査の対象者は関東地方の大学で2年次後期(2016年8月~2017年3月)に英語圏に語学留学をした女子学生52名である。その内、回答が不完全であ

った4名を除いた48名(カナダ23名(3校)、オーストラリア14名(2校)、アメリカ11名(2校))のデータを分析の対象とした。

レポート分析の対象者は2015年度と2016年度に同大学で同様の語学留学をした女子学生85名(カナダ41名、オーストラリア24名、アメリカ57名、レポート合計203通)である。留学先の学校はオーストラリアの1校を除き全て大学付属の語学学校である。

### 3.1.2 質問紙調査実施日と手続き

2年後期の語学留学を終え、帰国後オリエンテーションに参加した学生に対し無記名の質問紙を配布し、任意の回答を依頼した。回答のための時間制限は設けなかったが、全員が10分以内に回答を終えた。質問項目は3.1に示すとおりで、回答者は各項目の内容について、「よく聞かれた」、「ときどき聞かれた」、「あまり聞かれなかった」、「まったく聞かれなかった」の4つの選択肢から該当するものを選び、質問紙に直接マルをつけた。結果は4に示すとおりとなった。

## 4 結果と考察

### 4.1 質問を受ける頻度

尋ねられた頻度が高いものと低いものを知るために、各項目の回答をパーセンテージで表し、「よく聞かれた」の回答が多かったもの順に並べた(表1)。

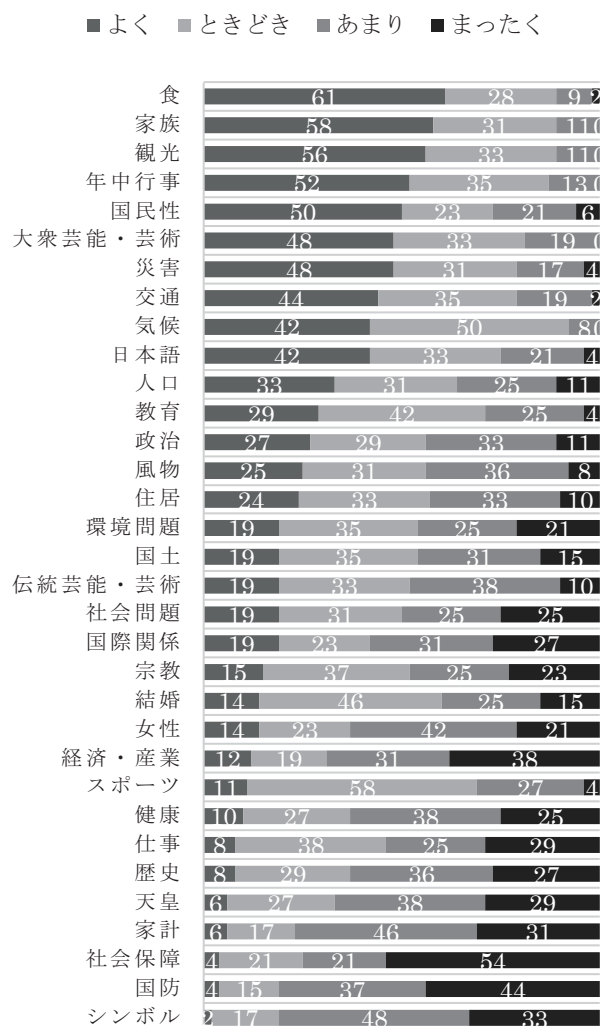
最も頻繁に尋ねられる話題として挙げられたものの上位10項目を見てみると、「食」、「家族」、「観光」、「年中行事」、「国民性」、「大衆芸能・芸術」、「災害」、「交通」、「気候」、「日本語」となり、比較的身近で日常的な話題が多いことがわかる。一方、最も聞かれなかった話題の上位10項目は、「社会保障」、「国防」、「経済・産業」、「シンボル(国旗・国歌等)」、「家計」、「天皇」、「仕事」、「歴史」、「国際関係」、「健康」であり、学校の授業や新聞等で扱われるような社会的な話題が多いことが分かる。全体的な傾向として、やはり日常生活に近い話題が頻繁に尋ねられているという結果となった。

### 4.2 高頻度で尋ねられる項目とその重要性

この結果はそれ自体驚くべきものではないが、この結果をもって、高頻度で尋ねられる話題の方が低頻度で尋ねられる話題よりも留学準備教育において重視されるべきだと結論付けるのは早計である。なぜなら、

高頻度で尋ねられることとそれに対する準備を必要とすることは別問題であるからだ。たとえば、「日本人は毎日寿司を食べるのか」という質問は高頻度判定を得た「食」に関する質問だが、それに対する答えは容易で、特別な準備を必要としない。一方、たとえ低頻度の話題であっても回答が難しかったり、回答できないと困るものもある。たとえば、留学した学生が大学生だとした場合、「日本の年金制度はどのようになっ

表1 質問の頻度(「よく聞かれた」順)



いるのか」といった質問にはある程度答えられることが期待される。答えられて当然とみなされる質問に答えられなければ、本人が恥をかくだけでなく、日本の大学生の教養レベルも疑われてしまいかねない。

このように考えると、準備学習の必要性は必ずしも尋ねられる頻度だけで決定できるものではなく、答えの難易度、答えられて当然か、という観点も考慮して決定しなくてはならないことになる。

### 4.3 質問される具体的内容

さて、上述の調査では「食」、「家族」、「観光」、「年中行事」などの項目について質問された頻度のみを対象にしていた。しかし、ひとくちに「食」や「家族」といっても、その範疇で尋ねられる質問の種類は数多ある。実際の準備学習においては具体的な質問内容が

分からなくてはどこから手をつけて良いのか迷ってしまう。それぞれの項目で学生たちは実際にどのような質問を受けているのだろうか。それを知るために学生たちが現地滞在中に書いたマンスリーレポートから具体的な質問内容を拾い上げ、大まかにまとめた。その結果は表2のとおりである。

表2 留学先で受けた具体的な質問内容

話題	具体例
家族	一般的な家族構成/休日の過ごし方/夫妻の家庭内の家事分担/日本の父親の家庭内での過ごし方
住居	家の作り(トイレと風呂が別)/靴を脱ぐ習慣/畳の部屋/ウォッシュレットや「音姫」は一般的か/一人暮らしの家賃はいくらぐらいか
教育	教育制度/大学入試制度と受験に必要な勉強量/学歴社会かどうか/日本の母親の教育観/一度就職し働いた後に、大学に入るケースもあるか/大学生の男女比/なぜ女子大があるのか(男子大はないのに)/大学生の日々の過ごし方・将来への展望/大学での授業形態の違い/大学生が勉強しないのはなぜか/なぜ英語を学びに留学する学生が多いのか/なぜ英文法はできるのに、話せないのか/通っている日本の学校と留学先の学校の違い/なぜ制服があるのか
食	日本人はよく寿司を作るのか/日本の寿司とアメリカ・カナダの寿司は違うか/握り寿司・巻き寿司の違い/寿司の食べ方/ラーメンの種類/なぜラーメンをすすって食べるのか(マナー違反ではないのか)/うどんとそばの違い/オススメの日本食は何か/日本人が日常よく食べるものは何か/日本食の特徴(味や香りを含め)/日本食の作り方/出身地で有名な食べ物/日本と韓国の食べ物の違い/お箸の使い方/食事のマナー(いただきます・ごちそうさま)/なぜ便利な食材(すぐ作れる)が多いのか/日本の牛乳の濃度
家計	物価の違い(水500mlの値段)/消費税/カラオケ(1時間いくら、部屋の大きさ)
社会保障	具体例なし
仕事	就活の流れ/就職の面接
結婚	夫婦別姓についてどう思うか/結婚式のしきたりの違い
宗教	日本の主な宗教/仏教徒とキリスト教徒の割合/信仰している宗教は何か/なぜ無宗教でいられるのか/なぜ無宗教でも神社にお参りにいくのか/なぜクリスチャンでない人がキリスト教の大学に行くのか
女性	男女平等(仕事選択・給料)/性別によって就きにくい職業はあるか/なぜ結婚すると専業主婦になるのか/日本における性別問題
健康	喫煙者は留学先と比べて多いか/臓器ドナー制度
日本語	なぜ3種類の文字(ひらがな・カタカナ・漢字)があるのか/ひらがな・カタカナ・漢字の使い分け/なぜ漢字に読み方がたくさんあるのか/日本の漢字と台湾の漢字の違い/挨拶や簡単なフレーズ/文法や言葉の意味(「かわいい」はcuteかprettyか、兄弟の呼び方(兄弟)、「だね」の意味)/丁寧語・尊敬語・謙譲語の違い/シチュエーション別のお辞儀の種類/名刺交換の方法/擬音語・擬態語/日本語の発音・イントネーションの特徴、区別しにくい発音(つ・ず)/俳句とはどのようなものか/自分や日本人の名前の由来
伝統芸能・芸術	歌舞伎(なぜ役者は怒った顔(隈取り)をしているのか)/お茶の文化/和太鼓
大衆芸能・芸術	日本で人気のアニメ・漫画(『ワンピース』のような漫画は10人中何人くらい読んでいるのか)/どんな音楽が流行っているか、人気アーティスト、人気のジャンル/日本で流行っているK-POP/日本の若者はどのようなゲームが好きか/日本の芸能人の情報
スポーツ	相撲はどういうものか(ルールなど)/オリンピックでの日本選手の活躍はどうだったか
年中行事・儀式	伝統的なお祝いにどのようなものがあるか/日本のハロウィンとはどのようなものか/Thanksgivingのような重要な食事はるか/クリスマスと正月の過ごし方/成人式(目的、なぜ振袖を着るのか、大人になる年齢)/なぜバレンタインデーに友達や同僚にたくさんチョコをあげるのか/誕生日の祝い方/ユニークなフェスティバルがあるか/薄れゆく伝統的な習慣(年賀状)や行事/国民の祝日とその意味/着物(どういう時に着るのか)/鎧兜/お手玉の使い方/銭湯と温泉
国民性	なぜ挨拶でハグやキスをしないのか/なぜ不満・不便があっても我慢して言わないのか/なぜ意見を言わないのか/なぜいつもルールを

	守るのか/なぜ礼儀やフォーマリティーを重視するのか/なぜそんなに忙しい(勤勉家)のか/なぜ日本の男性は家事をあまりしないのか/なぜ温泉でタトゥーがだめなのか/価値観の各国比較(韓国人と似ている等)/なぜ日本人はやせている人が多いのか/野菜の無人販売は本当か(なぜ信用できるのか)/日本の道はなぜきれいなのか/なぜみんなが東京に住みたがるのか
国土	位置/出身地の場所と特徴/出身地と留学先の都市の違い/大学のある都市の場所と特徴
人口	日本の人口/東京の人口/出身地の人口
気候	今、日本はどんな気候・気温か/四季の特徴/一番寒い日の気温(摂氏を華氏に変換するのが難しい)
観光	有名・オススメの観光名所/東京の観光名所/世界遺産(原爆ドーム・京都)
災害	なぜ地震が多いのか/地震(3.11)の時のこと/どんな防災訓練をしているか
政治	政治制度(総理大臣の仕事や任期等)/選挙制度/言論の自由(政府に批判的なことを言っても大丈夫か)
天皇	天皇の役割や位置付け(天皇は中東の王と同じか)/天皇家
国防	自衛隊の役割や位置付け/日本にアメリカ軍基地があることについてどう思うか
国際関係	尖閣諸島問題についてどう思うか/日韓の領土問題についてどう思うか/中国人に対する印象/日本とアジア諸国との歴史的・政治的関係/日本は難民の受け入れをしているか/米国大統領の印象
シンボル	国旗の意味/愛国心があっても表現しないのはなぜか(なぜ国旗などをあまり使わないのか)
歴史	沖繩戦/江戸時代/織田信長/杉原千敏(ユダヤ人のホストファミリーと)
経済・産業	ドライバー(オススメの日本メーカー)
交通	東京・出身地と留学先都市の交通機関の違い/新幹線/車のドライバーのマナーの良し悪し/なぜ左側通行なのか/バスの利用者の違い(低所得者だけが使用するわけではない)
環境	リサイクルの仕方/環境問題に対する日本人の意識
社会問題	ホームレスやストリートチルドレンがいらないのはなぜか/ソーシャルメディアでのトラブル/高齢化社会/社会的マジョリティについて

全体を見渡して分かることは各項目とも、尋ねられる具体的な質問の種類はかなり限られているということである。このことは、限られた内容だけを集中的に準備すれば現地での質問にとりあえずは対応できることを意味するが、同時に留学先での情報発信の内容が限定され、断片的な情報しか伝達できていないことも意味する。海外で日本の情報を積極的に発信することを奨励する立場からは、好ましくない状況だと言える。したがって、質問されない話題についても積極的に情報発信できるよう、こちらが発信したい情報を見極め、積極的に準備を行う必要がある。

次に、尋ねられる質問の中身を詳しく見ると、それぞれの質問は表3のように大きくいくつかのタイプに分類できることがわかる。また、それぞれのタイプごとに要求される学力(知識・分析力)も異なることが見てとれる。たとえば、東京の人口を尋ねる質問では数量的な情報が求められており、その数値を知識として持っていることのみが要求される。一方、なぜ日本人は謙虚なのかを尋ねる質問では理由の説明が求められており、知識のみならず、分析力も必要とする。

したがって、準備学習では知識の修得だけでなく分析力を磨く練習も必要となる。

表3 質問のタイプ分け

質問のタイプ	具体例	要求される学力
数量その他の事実に関する情報を求める	東京の人口はどのくらいか	知識
制度・仕組み等に関する説明を求める	首相はどのように選ばれるのか	
理由・分析を求める	なぜ日本人は謙虚なのか	知識と分析力
意見を求める	領土問題についてどう思うか	

さらに、それぞれの質問は必ず答えられるべきか、そうでないかによっても分別できることが分かる。たとえば、日本の総人口や政治制度に関する質問は必ず答えられるべきものであるが、カラオケボックスの1時間の使用料金や臓器ドナー制度の詳細、日本語の細

かな文法規則などは答えられなくても恥ずかしいレベルのものではない。したがって、後者は留学準備教育で扱う優先順位は低い。また、日本の大学進学率や難民受入状況など、正確に答えられなくても恥ずかしい程ではないが、大学生・大人としてはある程度答えられることが望ましい質問もある。

以上のことをまとめると、留学中に尋ねられる質問は「質問のタイプ」と「答えられる必要性」という2つの観点から表4のようにまとめることができる。各マスには代表的な質問内容を入れた。

表4 「質問のタイプ」と「答えられる必要性」

	必要性大 答えられな いと恥ずか しい	必要性中 大学生・知識 人は答えられ ることが期待 される	必要性小 答えられなく ても仕方がな い
数量的な情報や答えが決まっている情報を求める	・日本の総人口はどのくらいか ・女性も天皇になれるか	・主な宗教と信者の割合は ・難民をどの程度受け入れているか	・カラオケボックスの使用料金はいくらくらいか ・世界遺産はいくつあるか
制度・仕組み等に関する説明を求める	・総理大臣はどのようなように選ばれるのか ・日本と留学先の国の教育制度の違いは何か	・社会保障制度(年金・健康保険等)はどのようになっているか ・自衛隊は他国の軍隊とどう違うのか	・外国人が日本で永住権を取得する方法は ・臓器ドナー制度はどのようなになっているか
理由・分析を求める	・なぜ地震が多いのか ・なぜ日本人は自分の意見を言わないのか	・なぜ同じ漢字に読み方がたくさんあるのか ・なぜ少子高齢化が進んでいるのか	・なぜ歌舞伎役者は隈取りのメイクをするのか ・なぜ日本語には擬音語・擬態語がたくさんあるのか
意見を求める	・今の日本の首相についてどう思うか	・捕鯨についてどう思うか	・黒沢明の映画についてど

いてどう思うか ・天皇制についてどう思うか	・日韓の領土問題についてどう思うか	う思うか ・武士道についてどう思うか
--------------------------	-------------------	-----------------------

留学準備教育ではこの表を参考に、答えられる必要性の高い質問を優先的に扱い、知識のみを必要とするものと分析を必要とするものをバランスよく取り上げるべきである。選定すべき具体的な内容については、しかしながら、今回調査対象となったマンスリーレポートだけでは多様性に欠け、十分ではないことがわかった。別途、より詳細な調査を行うとともに、こちらから発信したい内容と合わせて再度詳しい検討が必要であろう。

### 5 まとめ

これまで自国に関する知識は通常の学校教育や実生活をとおして修得されていることが前提となり、留学前にあらためて学習する必要性は積極的には唱えられてこなかった。しかし、足立<sup>20)</sup>が示すとおり、学生は留学先で自身の日本に関する知識不足を感じ、学び直す必要性を痛感している。その意味で、学生が尋ねられる質問の内容と頻度を把握し、それをもとに留学準備教育の内容を構築していこうという本調査の意義は大きい。

今回の調査では、まず、学生が受ける質問内容には偏りがあり、食や観光など日常的な話題が多いことが明らかになった。また、具体的な質問内容も限られ、必ずしもバランスの良い情報発信にはなっていない可能性があることも分かった。もし、留学先でより多くの人たちに日本の真の姿を偏りなく知ってもらいたいのであれば、受けた質問にただ答えるだけでなく、こちらからも積極的に情報発信ができるよう準備学習を進めていく必要がある。

さらに、質問の内容により、必ず答えられるべきものと、必ずしも答えられなくても良いものがあることから、準備学習ではその点にも注意を払いながら取り上げる内容に優先順位をつけ、効率的な学習を目指すべきである。特に、優先順位の高い質問で、回答に高度な分析を必要とするものは、大学のような高等教育機関においては、積極的に扱うべきだと考える。

最後に、本調査の限界と今後の課題についても触れておきたい。まず、本調査は、語学留学をした学生を対象としており、学部や大学院に留学した学生は含まれていない。対象者が通ったのは主に大学付属の語学学校であり、クラスメートは各国から集まった留学生である。この点において大学の学部や大学院に留学した学生が受ける質問とは若干異なる可能性がある。また、本調査の対象者は全て女子学生であるため、女性向けの質問が多く出た可能性がある。たとえば、着物、成人式、結婚、性差別問題などは、どちらかという女子学生に向けて尋ねられやすい質問と思われる。したがって、今後の調査では学部・大学院、および男子学生も対象とした情報収集が必要であろう。

また、今回の調査では、現地で質問を受けた学生が、どの程度その質問に答えられたのかを知る十分なデータが得られていない。「マンスリーレポート」の記載内容に「うまく答えられなかった」、「〇〇のように答えておいた」等のコメントはあるものの、断片的であり、まとまった客観的なデータとしては利用できない。準備教育に携わった筆者の印象では、日常の簡単なトピックを除くと、英語で適切に質問に答えられているケースは多くないと思われる。英語で質問に答えるには、まず日本語で内容を知っていることが前提となるが、それ自体も怪しいケースが少なくない。準備学習において、日本語で知識をつけると同時に英語で表現するスキルをつけさせるのは非常にハードルが高いことだが、この双方ができなければ、準備学習の目的は果たせない。その意味で、効果的な指導方法を模索し、確立していくことは急務である。

本稿では、留学中に尋ねられる質問の内容を中心に論じてきたが、より広い視点で日本事情教育を考えると、これ以外にも明らかにすべき事柄がいくつかある。一つは、準備学習で得た知識が留学先でどのように使われ、相手とのやりとりをとおして、日本の学生にどのような変容をもたらすのかについてである。

準備学習で日本に関する知識を蓄える目的は、現地で出会う人々に日本を知ってもらうだけでなく、相手からの反応や相手国との比較をとおして日本の学生自身も自国に関する知識を相対化し、より客観的に日本を再認識できるようになることも含む。たとえば、憲法9条や自衛隊に関する知識を留学先で披露するような場面では、相手から賞賛の声も、否定的な声

もあるだろう。そうした反応を受けることにより、日本の憲法や自衛隊、ひいては世界平和についてこれまでとは違う視点から考え直すことができるようになる。準備学習で蓄えた知識が留学先で学生にどのような変化をもたらすのか、詳しく調査することにより、準備学習の重要性もより明確になる。

さらに、日本事情教育を準備段階と留学期間中だけに終わらせないために、帰国後の指導についても考える必要がある。留学先で十分に質問に答えられなかった学生が、帰国後にその弱点を補うためにどのような行動を取るのか、あるいは取らないのかについて調査し、留学後のフォローアップ教育のあり方を検討しなくてはならない。

このように、留学の準備段階、留学中、帰国後の一連の流れの中で留学の教育的意義を考え、それぞれの段階においてどのような教育支援が必要かを考えていくことが何よりも重要である。

## 引用・参考文献

- 1) 足立恭則. (2015). 語学留学の成果に関する意識調査：語学プラスαの語学留学の可能性を探る. グローバル人材育成教育研究, 2(1), 31-42.
- 2) 新渡戸稲造. (1938). 武士道. 改版. 東京：岩波書店.
- 3) ルース・ベネディクト. (1948). 菊と刀—日本文化の型. 長谷川松治訳. 東京：社会思想研究会出版部.
- 4) 日鉄住金総研. (2016). 日本～その姿と心～ 第10版. 東京：日鉄住金総研.
- 5) 学習研究所. (2001). 日本タテヨコ—JAPAN AS IT IS 改訂第4版. 東京：学習研究所.
- 6) 日本政府観光局：  
[http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor\\_support/interpreter\\_guide\\_exams/index.html](http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/interpreter_guide_exams/index.html). (2017年8月24日参照)
- 7) 倉地曉美. (1994). 国際化時代における「日本事情」教育の課題：グローバル教育の視点から. 広島平和科学, 17, 105-126.
- 8) 文部科学省. 高等学校学習要領.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf). (2017年8月24日参照)
- 9) 文部科学省. (2013). グローバル化に対応した英語教育改革実施計画.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugou/\\_icsFiles/afieddfile/2014/01/31/1343704\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugou/_icsFiles/afieddfile/2014/01/31/1343704_01.pdf). (2017年8月24日参照)
- 10) 足立恭則. (2009). 大学における充実した留学教育構築のために. 人文・社会科学論集, 27, 35-52.
- 11) Woody Thebodo, S., & Marx, L. E. (2005). Predeparture Orientation and Reentry Programming. In J. L. Brockington, W. W. Hoffa, &



- P. C. Martin (Eds.), *NAFSA's Guide to Education Abroad for Advisors and Administrators* (pp.293-312). Washington, DC: NAFSA: Association of International Educators.
- 12) 高濱愛, 田中共子. (2009). アメリカ留学準備のためのソーシャルスキル学習の試み—アサーションに焦点を当てて—. *異文化間教育*, 30, 104-110.
- 13) 高濱愛, 田中共子. (2011). 米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1)—自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて—. *一橋大学国際教育センター紀要*, 2, 123-132.
- 14) 前掲 1)
- 15) 松本江. (2014). *英語で日本紹介ハンドブック 改訂版*. 東京: アルク.
- 16) 講談社インターナショナル. (2003). *バイリンガル日本事典*. 東京: 講談社インターナショナル.
- 17) 日鉄住金総研. (1982). *日本〜その姿と心〜* 第1版. 東京: 学生社.
- 18) 学習研究社. (1985). *日本タテヨコ—JAPAN AS IT IS* 第1版. 東京: 学習研究社.
- 19) 堀口知子. (2010). *英語で紹介する日本事典*. 東京: ナツメ社.
- 20) 講談社インターナショナル. (2004). *英語で話す「日本」Q&A 改訂第3版*. 東京: 講談社インターナショナル.
- 21) 前掲 1)

受付日 2018年2月12日、受理日 2018年7月14日

## 付録

## 留学先で聞かれた日本に関する質問についての調査 (A)

本調査は、留学先で聞かれた日本に関する質問について調査するものです。アンケートは無記名で実施し、個人名を特定することはありません。留学準備教育の改善とその研究に使用されるものです。  
ご協力よろしくお願いたします。

留学先はどこですか。

1. アメリカ 2. カナダ 3. オーストラリア

次の話題について、どのくらいの頻度で質問されたか答えてください。

(よく聞かれた、ときどき聞かれた、あまり聞かれなかった、まったく聞かれなかった)

L1	家族 (例: 一般的な家族構成、家庭生活、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L2	住居 (例: 住宅の値段、家賃、住居の広さ、家の造り、通勤時間、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L3	教育 (例: 学校教育制度、進学率、英語教育、塾・予備校、学校生活、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L4	食 (例: 日常の食事、和食、調味料、作り方、箸など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L5	家計 (例: 物価、消費税、所得、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L6	社会保障 (例: 医療保険、年金、雇用保険、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L7	仕事 (例: 雇用形態、労働条件、単身赴任、失業率、定年、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L8	結婚 (例: 結婚年齢、お見合い結婚、結婚式、離婚率、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L9	宗教 (例: 神道・仏教・キリスト教、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L10	女性 (例: 女性の社会的立場、働く女性、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく
L11	健康 (例: 平均寿命、病院、健康維持法、主な死因、など) 1 よく          2 ときどき          3 あまり          4 まったく

以下省略